

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 31日から6月2日にかけて、低気圧が東日本付近から千島近海へ進む。高気圧はオホーツク海からカムチャツカの東へ移動する。
- 31日から6月1日にかけて、高気圧が沖縄・奄美付近から日本の南へ移動する。
- 6月2日から3日にかけて、前線が東シナ海から本州の南岸にのび、低気圧が前線上を東進する。
- 6月4日は、低気圧が千島近海へ進み、高気圧が黄海付近へ移動する。

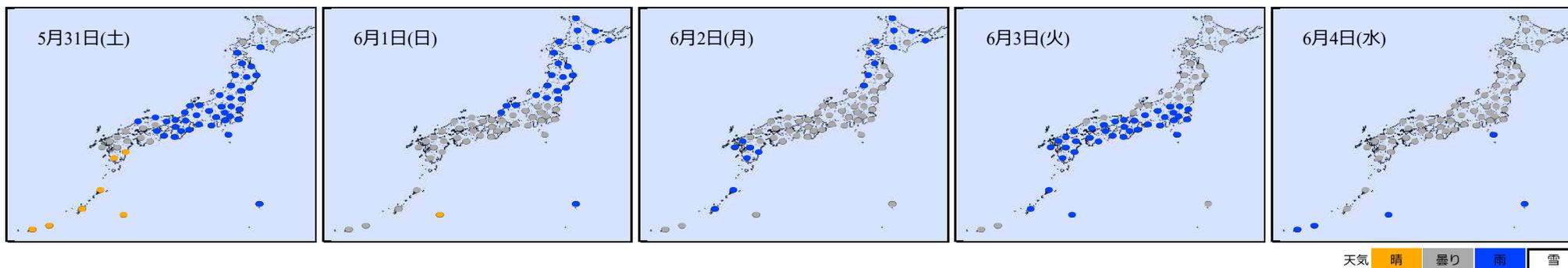
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 31日にかけて、上空に寒気を伴った低気圧が東日本付近に進む。低気圧や暖かく湿った空気の影響で東日本を中心に大雨となり、低気圧の動向等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

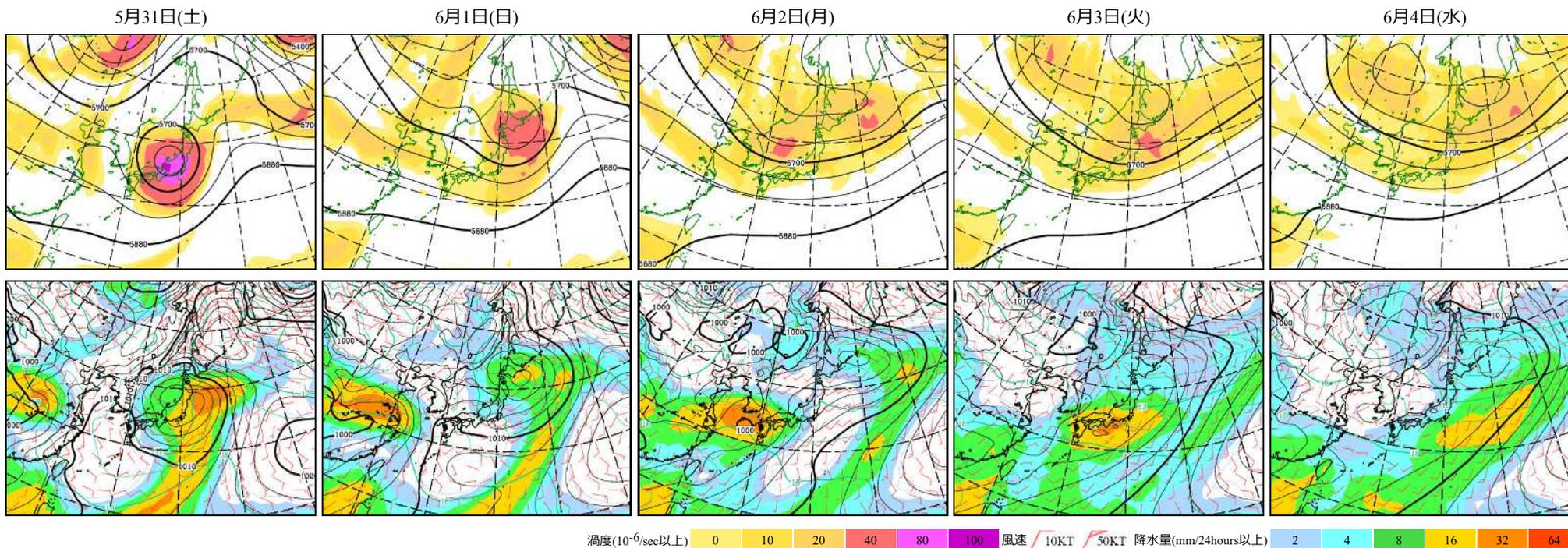
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

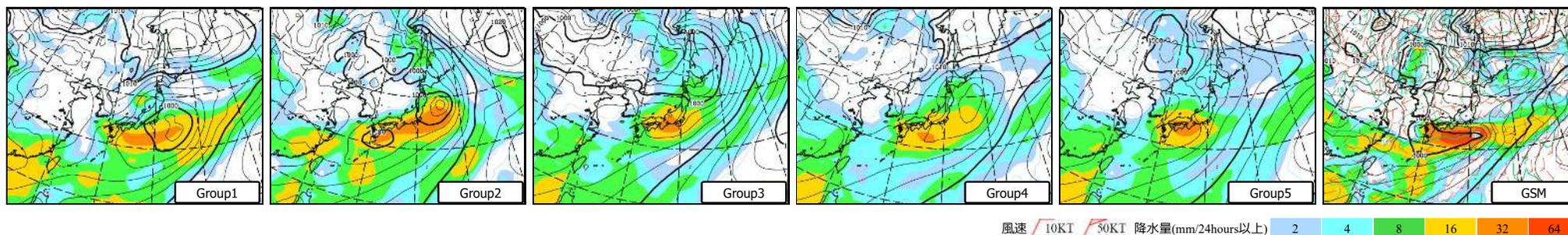


- 北日本は、雲が広がりやすく31日から6月2日にかけて雨の降る所がある。
- 東日本と西日本では、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、31日から6月1日は晴れる所があるが、その後は曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、31日から6月2日にかけて東日本付近から千島近海へ進む低気圧が発達する傾向となり移動が速くなった。2日から4日にかけて本州南岸を進む低気圧の東進が速くなり、3日までは南岸低気圧として表現されるようになった。この影響で、2日から3日は全国的に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- スプレッドは期間の後半大きく、各特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、モデル間のバラつきが大きいことを考慮して3日は北日本への雨域の拡大を割り引いた。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。